



「防災タイム」で避難経路を確認する館利用者＝さくらピアで

## 利用者が自主的に避難

豊橋の「防災タイム」で訓練体験 さくらピア

豊橋市障害者福祉会館「さくらピア」で1日から13日まで、毎年恒例の「防災タイム」を実施し、連日、利用者が避難訓練を体験している。さくらピアは豊橋障害者(児)団体連合協議会

が運営。秋には大規模な「避難所体験」を展開するほか、9月に2週間「防災タイム」を設けている。利用者が自主的に避難する全国でも珍しい試みで、避難経路等の安全について館職員と一緒に考

える機会としている。例年約600人が体験するが、今年は新型コロナウイルスの影響で延べ400人を見込んでいた。

1日3回、通常の活動中に訓練放送が流れ、利用者は職員の手導のないまま、1〜3階の各部屋から屋外へ避難する。4日午前にはピアカウンセラーや手織りのサークル会員ら約20人が参加した。放送後は速やかに移動を開始。悪候だったため、歩ける人は1階玄関までの避難経路をチェックしながら進み、車椅子利用者やつえの利用者は館内避難所に向かった。

団体ごとに自発的に人員を確認、職員は「大雨や地震など自然災害も多い。自助を意識し、避難経路をしっかりと覚えておいてほしい」と呼びかけた。

毎年、事後のアンケートを基に改善を手掛けている。各フロアで異なるサムターンを統一したほか、今年は屋外階段と通路計4カ所に入感センサーライトを導入、早速夜間の訓練時に利用者から喜ばれた。

【田中博子】

## 慌てず、けがせず行動して

豊橋市障害者福祉会館で避難訓練



訓練で避難する施設利用者ら＝豊橋市東新町の市障害者福祉会館で

豊橋市東新町の市障害者福祉会館(さくらピア)で利用団体が「さくらピア防災タイム」として、活動時間内での避難訓練に取り組んでいる。今月1〜13日の期間、一日三回実施し、利用者が自主的に避難経路を確認している。

害者ら約40人が参加。避難は放送のほか、施設内の複数箇所に設置されたパトランプを点灯させて、聴覚障害者にも分かるようにした。利用者は非常階段などを使い屋外に出て、会館近くの公園に避難した。車いす利用者は、消防などの救助を待つために二階ベランダに避難した。車い

すで避難した田原市の女性会社員(左)は、「実際の災害時も、今日のように誰もけがせず避難できればいい」と話した。さくらピアは、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で各部屋の利用人数を制限していて、人数が少ない割には利用者が施設内の広範囲に散らばっている。本田栄子事務長は「いつ災害が起こっても対応できるように、今後も防災意識を高めていきたい」と話した。(斎藤徹)

中日新聞

2020年9月13日(日)